

須坂市歴史的町並みの整備について

須坂市まちづくり推進部まちづくり課

1 蔵の町並みの特徴

- (1) 明治～昭和初期 製糸業で栄える。当時の繁栄を示す建物が多く残る。
- (2) 明治の二度にわたる大火を教訓に、蔵づくりの建物が多い。

2 蔵の町並み保存の契機

昭和 60 年代 地元の新聞で歴史的町並みが特集され、注目を集める。

→ 市民の意識が高まる。

市では「伝統的建造物群保存対策調査」を行い、歴史的建物の調査に乗り出す。

その結果、多くの蔵づくりの建物が残り、規模では川越、倉敷などにも劣らないという評価をいただく。

3 須坂地区歴史的景観保存対策事業（街なみ環境整備事業）の実施

- (1) 「須坂地区歴史的景観保存対策事業」を開始（平成 5 年度）

【補助金】市単独で補助金創設

【対象地区】土蔵造りの建物が連たんする旧街道筋を中心とする

【補助対象】住宅・店舗、門、塀、広告物等の修理・修景

- (2) 「街なみ環境整備事業」を導入（平成 7 年度）

【補助金】国の「街なみ環境整備事業」を活用

【対象地区】須坂地区歴史的景観保存対策事業区域(48ha)

【補助対象】① 小公園、公衆トイレ等の地区施設の整備

例) ふれあい館まゆぐら

② 住宅・店舗、門、塀、広告物等の修理・修景

- (3) 修理・修景の希望者がなかったため、「街なみ環境整備事業」を終了（平成 21 年度）

【実績】194 件の修理・修景事業を行う。(平成 5 年度～平成 21 年度)

事業の地区全体では 10 数%の修理・修景率

4 近年の歴史的町並みの整備

- (1) 蔵のまち観光交流センター 開館（平成 21 年度）

【補助金】国の「まちづくり交付金事業」を活用

【内容】まゆ蔵だった建物の耐震補強工事を行い、1 階を観光案内処、2 階を多目的ホールに改修した。また、隣接地に小公園を整備した。

- (2) 市道銀座通り線整備工事（平成 21～22 年度）

【補助金】国の「まちづくり交付金事業」を活用

【内容】i 蔵の町並みの景観にふさわしい石畳風舗装と側溝の敷設替えを行う

ii 車道と歩行者スペースを分離する

iii 市民や観光客が安心して散策できる歩行者に優しいゆとりの空間を備えた道路に整備した

【工事区間】 第 1 期整備工事（平成 21 年度） 193m

（笠鉾会館交差点～中町交差点）

第 2 期整備工事（平成 22 年度） 290m

（須坂クラシック美術館～笠鉾会館交差点）

5 町並み整備の効果

歴史的町並みの整備により、市道銀座通り線沿線には、古民家を活用したり、また、新たに出店する店舗が出てきた。

6 現在実施していること

- (1) 歴史的建物の調査を実施（平成 22 年度）

【調査目的】 「伝統的建造物群保存対策調査（平成 2 年・3 年）」で対象となった建造物がどのくらい残っているか現況調査を行う

【調査区域】 旧須坂町（市街地）、福島宿、仁礼宿、井上（郊外） 375 棟が対象

【調査結果】 市街地では 52.2% 347 軒の内 181 軒が現存

約 20 年間で約半数の歴史的建物が失われる

- (2) 「歴史的建物維持保存活用検討委員会」の設置（平成 23 年 7 月）

【委員会の目的】 実際に歴史的建物を活用している方、積極的にまちづくりに携わる若者等から構成される委員会で、歴史的建物の活用による維持保存策を検討していく



整備後



整備前

市道銀座通り整備前後 写真